

中部環境計量士会だより

2022年8月25日発行

第29号



【写真】 南アルプス塩見岳西峰から望む東峰と富士山 (田中会員撮影)

目次

- 1 2022年度総会報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 2 最近実施した行事・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 3 最近の環境関係法令等の動き・・・・・・・・・・ 5
- 4 会員だより
 - 「何とか登った日本百名山 9」・・・・・・・・・・ 6
 - 「海洋プラスチック汚染」を読んで ・・・・・・・・ 8
- 5 訃報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

1 2022年度総会報告

中部環境計量士会の総会と講演会を2022年7月30日(土)13:30からウイルあいちで開催しました。

新型コロナウイルス感染症が蔓延している時期でしたので、厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策専門家会議の提案を参考にして、会場は常に外気を取り込み室内空気を排出する対策をとりながら開催しました。

14名の会員の出席(別に表決委任者16名)の下で開催され4議案が可決されました。以下にそれらの内容を紹介します。

第1号議案 2021年度活動報告及び収支報告

(1) 総会 2021年10月17日～11月11日

2021年10月になっても新型コロナウイルス感染の収束の見通しが立たないため、対面方式の会議を開くことはせず、インターネットにより議案を審議することにしました。

(2) 講演会・見学会・会員勧誘のチラシ配布・勉強会・懇親会

新型コロナウイルス感染症が収まらなかったため、これらの活動は休止となりました。

(3) 会誌等の発行

・「中部環境計量士会だより」を2021年12月に発行しました。

・2021年度はほとんどの活動が休止となったため、会誌「緑野」の発行を休止しました。

(4) 2021年度収支決算報告

会計監事から適正執行の報告がありました。

別紙1：2021年度収支決算報告書

第2号議案 2022年度役員選出

会 長：佐野 教信

副会長：山田 雅英

幹 事：板本 秀一、石原 好実、大井 民男、大蔵 昭英、近藤 浩子、鈴木 全、田中 義身、新谷 良英、服部 寛和、由利 富士雄、吉田 信夫、渡邊 永策

会 計：杉浦 世紀子

会計監事：阪野 二郎

の各氏

第3号議案 2022年度行事計画

(実施予定の主な活動)

(1) 見学会の実施 新型コロナウイルス感染症の状況によって実施の判断をします。

(2) 勉強会の開催 講師は新谷良英会員「作業環境測定法の改正による影響」他を予定。

(3) 会誌等の発行

・「中部環境計量士会だより」年2回(8月・12月)

・会誌「緑野」第60・61号合併号を2023年3月に発行。

第4号議案 2022年度収支予算

別紙2：2022年度収支予算書

以上、第1号議案から第4号議案について、承認されました。

別紙 1

2021年度 収支決算報告書

自 2021年4月1日
至 2022年3月31日

一般会計

1. 収入の部

単位:円

科目	予算	決算	差額	備考
会費	228,000	220,000	△ 8,000	4,000円×55
前年度繰越金	88,916	88,916	0	
その他の収入	0	0	0	
合計	316,916	308,916	△ 8,000	

2. 支出の部

単位:円

科目	予算	決算	差額	備考
総会費	0	0	0	総会はオンラインで開催。
役員会費	15,000	0	△ 15,000	役員会はオンラインで開催。
印刷費	100,000	0	△ 100,000	緑野 60号(2022年3月)を発行休止した。
通信費	20,000	1,574	△ 18,426	
講演会・勉強会	50,000	0	△ 50,000	講演会・勉強会とも休止。
事務局委託費	20,000	20,000	0	
ホームページ管理費	12,000	11,220	△ 780	インターネット管理費
原稿謝礼	20,000	2,000	△ 18,000	中部環境計量士会だより原稿
雑費	5,000	0	△ 5,000	事務用品等の消耗が少なかった。
HPリニューアル積立費	0	0	0	
小計	242,000	34,794	△ 207,206	
次年度会費預かり金	0	4,000		2022年度分1名
予備費	74,916	270,122		
小計	74,916	274,122	199,206	次年度繰越金
合計	316,916	308,916	△ 8,000	

積立金

1. 収入の部

単位:円

科目	予算	決算	差額	備考
前年度繰越金	50,000	50,000	0	前年度繰越金
HPリニューアル積立費	0	0	0	
合計	50,000	50,000	0	

2. 支出の部

単位:円

科目	予算	決算	増減	備考
HPリニューアル	20,000	0	△ 20,000	SSLサーバー証明書取得
次年度繰越金	30,000	50,000	20,000	次年度へ繰越
合計	50,000	50,000	0	

別紙 2

2022年度 収支予算書

自 2022年4月1日
至 2023年3月31日

一般会計

1. 収入の部

単位:円

科目	2021年度予算	2022年度予算	増減	備考
会費	228,000	212,000	△ 16,000	4,000円×53
前年度年会費預かり金	0	4,000	4,000	2022年度会費1名分
前年度繰越金	88,916	270,122	181,206	
その他の収入	0	0	0	
合計	316,916	486,122	169,206	

2. 支出の部

単位:円

科目	2021年度予算	2022年度予算	増減	備考
総会費	0	11,200	11,200	会場費
役員会費	15,000	25,000	10,000	交通費、会場費
印刷費	100,000	120,000	20,000	緑野60・61号合併号(2023年3月発行予定)
通信費	20,000	25,000	5,000	
講演会・勉強会	50,000	50,000	0	講師謝礼、会場費
事務局委託費	20,000	20,000	0	
ホームページ管理費	12,000	12,000	0	インターネット管理費
原稿謝礼	20,000	25,000	5,000	緑野60・61号合併号、中部環境計量士会だより
雑費	5,000	15,000	10,000	
弔慰金	0	10,540	10,540	黒木副会長ご逝去
HPリニューアル積立費	0	160,000	160,000	
予備費	74,916	12,382	△ 62,534	
合計	316,916	486,122	169,206	

積立金

1. 収入の部

単位:円

科目	2021年度予算	2022年度予算	増減	備考
前年度繰越金	50,000	50,000	0	前年度繰越金
HPリニューアル積立費	0	160,000	160,000	
合計	50,000	210,000	△ 160,000	

2. 支出の部

単位:円

科目	2021年度予算	2022年度予算	増減	備考
HPリニューアル	20,000	210,000	190,000	
次年度繰越金	30,000	0	△ 30,000	
合計	50,000	210,000	160,000	

2 最近実施した行事

【講演会】

2022年7月30日(土) 15:20～16:30 ウイルあいち会議室

演題：「積乱雲による激しい気象現象」

講師：吉田信夫会員

3 最近の環境関係法令等の動き

(2022年8月25日現在の情報です。最新情報は省庁のホームページでご確認ください)

○「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律施行令等の公布及びプラスチック使用製品廃棄物分別収集の手引きについて」 令和4年1月19日

出典：環境省ホームページ「報道発表一覧」「再生循環」(URL：<https://www.env.go.jp/press/110432.html>)

令和3年6月11日に公布された「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」(令和3年法律第60号)の規定に基づき、施行令、施行規則等が公布されました。

また、「プラスチック使用製品廃棄物の分別収集の手引き」が公表されました。

- ・告示「プラスチックに係る資源循環の促進等を総合的かつ計画的に推進するための基本的な方針」(経済産業省・環境省告示第2号)
- ・政令「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律施行令」(政令第25号)

○「ダイオキシン類に係る大気・土壌・底質における調査測定マニュアル等の改訂について」 令和4年3月25日

出典：環境省ホームページ「報道発表一覧」(URL：<https://www.env.go.jp/press/110793.html>)

令和2年3月に、排出ガス及び排出水の測定方法について定めたJISK0311及びJISK0312が改定されたことから、各種マニュアルについて見直しが行われました。ダイオキシン類の大気・土壌・底質を対象とした調査測定方法を定めた各種マニュアルが改訂され、目標検出下限・目標定量下限の変更や前処理方法の追加等の改訂が行われました。

- ・ダイオキシン類に係る大気環境調査マニュアル
- ・ダイオキシン類に係る底質調査測定マニュアル
- ・底質のダイオキシン類簡易測定法マニュアル
- ・土壌のダイオキシン類簡易測定法マニュアル

○「水道法施行規則第17条第2項の規定に基づき厚生労働大臣が定める遊離残留塩素及び結合残留塩素の検査方法の一部を改正する件」 令和4年3月31日厚生労働省告示第133号、生食0331第3号

出典：厚生労働省ホームページ「厚生労働省データベースサービス」

(URL：https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=79aa5327&dataType=0&pageNo=1)

出典：厚生労働省ホームページ「政策について」「分野別の政策一覧」「水道対策」「法令・通知等」

(URL：<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000922470.pdf>)

遊離残留塩素及び結合残留塩素の検査方法(平成15年厚生労働省告示第318号)に、別表第6「携帯型残留塩素計 測定法」が追加されました。

4 会員だより

『 何とか登った日本百名山 9 』

—飯豊山、燧ヶ岳、至仏山—

田中義身

19飯豊山、28燧ヶ岳、29至仏山の三山の記録を紹介します。

飯豊連峰の主峰は飯豊本山とも言われる飯豊山（2105m）ですが、最高峰は大日岳（2128m）です。難度の高い百名山とされていますが、地図上においてもユニークです。山形、新潟、福島の三県の県境が重なるあたりから、福島県の県域が細長く山形、新潟の県境に割り込んで飯豊山まで伸びています（7.5km、うち4kmは幅90cmとのこと）。飯豊山頂にある飯豊山神社奥宮が福島県のものとされ、参詣道と境内が福島県に属するからだそうです。

燧ヶ岳と至仏山は尾瀬ヶ原の東西にあつて、尾瀬を引き立てている山です。

19 飯豊山 大日岳 (2128m) 2014年8月30日(土) クラブツーリズムツアー

大日岳を目指す二十数名のグループでしたが、飯豊本山や飯豊本山と大日岳の間の御西小屋で止めた人も多く、大日岳登頂者は半分ほど。この山で百名山達成となる愛知県のご夫婦がおり、みんなで祝福しました。

[行程]

- 第1日 新幹線で福島駅→バスで白川温泉
- 第2日 白川温泉→バスで大日杉登山口 5:45→9:25 地蔵岳→13:30 切合小屋
- 第3日 切合小屋 4:30→7:10 飯豊本山頂上→10:30 大日岳頂上→往路下山→16:30 切合小屋
- 第4日 切合小屋→往路下山→バスで白川温泉、山形駅→新幹線



切合小屋から東（朝）



飯豊本山—大日岳間



切合小屋から大日岳



飯豊本山（下山時）

28 燧ヶ岳 (2356m) (俎嶮 2346m) 2000年6月17日(土) 単独登山

妻と一緒に水芭蕉を見に尾瀬に行った折、朝一人で登りました。
早朝の暗いオオシラビソの森で残雪に残る踏み跡を見失い、迷いそうになりました。山頂は柴安嶮 (2356m) と俎嶮 (2346m) の二つのピークに分かれています。残雪が深く柴安嶮は断念しました。



[行程]

- 第1日 会津高原尾瀬口駅→バスで尾瀬沼山→長蔵小屋 (泊)
- 第2日 長蔵小屋→長英新道→俎嶮頂上→往路下山→尾瀬ヶ原を歩き山の鼻泊、翌日鳩待峠からバスで上毛高原駅へ



8合目付近から俎嶮



俎嶮から柴安嶮



燧ヶ岳から尾瀬沼



尾瀬ヶ原から燧ヶ岳



尾瀬ヶ原から至仏山



水芭蕉

29 至仏山 (2228m) 2007年7月31日(火) 単独登山

前日に白根山を目指しましたが雷雨で途中下山しました。
この日は天気が良く尾瀬ヶ原とその向こうの燧ヶ岳が綺麗に見えました。
ただ、至仏山の山頂や登山道はかなり荒れている感じがしました。



[行程]

- 片品村のペンション→バスで鳩待峠→至仏山頂上→鳩待峠→バスで上毛高原駅



至仏山山頂



尾瀬ヶ原と燧ヶ岳を望む

4 会員だより

『「海洋プラスチック汚染」を読んで』

鈴木 全

岩波書店発行の中嶋亮太著『「海洋プラスチック汚染」～「プラなし」博士、ごみを語る』を読んでみた。私は常に海に接しているわけではないので海洋汚染については馴染みがなかったのだが、この本を読んで考え方がずいぶん変わった。

私達が毎日使っているプラスチックは適切に処理されないと海に流出し、それが世界中に拡散し、蓄積されているというものだ。

プラスチックは毎年4億トンが生産され、1000万トンが海に流出しており、2050年には流出したプラスチックの総量は魚の総量を超えられている。プラスチックは完全に分解するには非常に長い時間がかかる。生物が誤食したりして死亡しているショッキングな画像はよく見るが、それ以外にも運搬途中で物理・化学的作用を受けて細粒化された直径5ミリメートル以下のマイクロプラスチックは、生物がこれらを摂取することによる影響も大きい。魚のプラスチックの誤食は回り回ってそれを食べる人間にも影響を及ぼすことになる。

これまでに生みされたプラスチックは83億トン、そのうち63億トンが廃棄物となった。しかし、それを分別してリサイクルされているのは9%しかない。世界における処理能力がオーバーしているので、EUは2030年までに使い捨てプラスチックを廃止すると発表している。プラスチック汚染の防止に関する世界的な法的整備は進んでおらず、早く手を打たないと気候変動問題と同様、深刻な影響が懸念されているとしている。

ここからは私見だが、最近はペットボトル以外にもマスクが捨てられているのが散見される。不織布のマスクは紙でできていると思っている人が多いが、実はプラスチックである。これらも回収されなければ、長い間には細粒化されマイクロプラスチックとなり、土壌や海を汚染することになる。

また、この本では触れられていないが、大気中のマイクロプラスチック汚染もかなり広がっているようだ。これらも肺に入ってしまうとアスベスト同様、なかなか排出されなくなるということなので、将来どのような影響が出てくるのか心配である。

この本は、現在、問題となっている海洋プラスチック汚染について、多くのデータをもとに客観的に述べられていて説得力があった。また、専門用語の使用も少ないので読みやすかった。私にとっては、これからこの問題を考える上でとても参考になる本であった。

5 訃報

中部環境計量士会の前副会長の黒木篤清様が、2022年6月30日に逝去されました。

黒木前副会長は中部環境計量士会の運営に長く携われ、ただならぬご尽力をいただきました。

あらためて深く感謝申し上げますとともに黒木様のご冥福を心よりお祈り申し上げます。